



presents

「からだとことばといのちのレッスン」

人間と演劇研究所特別講座 滋賀合宿ワークショップ

宮沢賢治を読む

表現力・コミュニケーション力・自分力を磨きたい人のために

「からだとことばといのちのレッスン」は竹内敏晴の「竹内レッスン」と「野口体操」を応用したレッスンです。

合宿ではレッスンでじっくりとからだと向き合って、新しいからだの感覚で宮沢賢治の物語で朗読劇を行います。

開いたからだで、表現する楽しさや朗読劇を通してだれかとつながる喜びを体感

しませんか。

2018年1月6日(土)～8日(月)

*6日 13時 JR 和邇駅集合・8日 16時 30分 JR 和邇駅解散 会場まで送迎あり

講師：瀬戸嶋 充・ばん 人間と演劇研究所 <https://ningen-engeki.jimdo.com/>

<講師プロフィール>

講師紹介：瀬戸嶋 充・ばん
1981年竹内敏晴・野口三千三
に師事。1988年人間と演劇研
究所設立、「竹内からだこと
ばのレッスン」と「野口体
操」の継承指導、宮沢賢治作
品の舞台創作を続ける。現在、
主に東京・大阪・京都でレッ
スン教室を主宰。その他、内観療法・禅・丹田呼吸法な
ど、日本の伝統に根ざした心身修養法を学ぶ。人間と
演劇研究所代表・日本ソマティック心理学会協会SPN
世話人。



◇会場：ユースホステル 和邇浜（わにはま）青年会館 〒520-0523 滋賀県大津市和邇南浜 403 電話 077-594-0244

◇定員：10名 ◇費用：38,000円 レッスン参加費・宿泊費・食費込（駅から会場までのタクシー代・懇親会費用は別途）

講師：瀬戸嶋 充・ばんよりメッセージ

「からだ」とは全てを映す透明スクリーンです。「眼鏡に合う」と言いますが、私たちは自我のフィルター(眼鏡)越しに、このスクリーンを見えています。フィルターとは脳に書き込まれた個人的な価値観 = エゴなのです。「あるがままに見る」と言いますが、スクリーン(からだ)に去来する映像をそのままに見るには、息の深さと、エゴに妨げられることのない集中力が 必要です。スクリーンに映される光景に「ころ」を奪われるとき「いまここ」が成立します。その透明スクリーンに物語を投影し、その世界に参入するのが朗読劇です。宮沢賢治童話の世界にご一緒しましょう。

野口体操とは

東京芸術大学名誉教授 野口三千三(1914 ~ 1998年)によって創始。独自の人間観・身体観に基づいた実技・実践は、演劇・美術・音楽・舞踏・教育・保健・医療など幅広い分野に大きな影響を与える。緊張努力礼讃の風潮に抗して、力を抜くこと、からだを緩めほぐし感覚を育てることの重要性を説き続ける。その実践は、著書『原初生命体としての人間』(岩波現代文庫)に詳しい。

竹内レッスンとは

宮城教育大学・南山短期大学教授 竹内敏晴(1925 ~ 2009)の創始。竹内自身、青年期まで聾啞者であり、戦後新薬の発明によって聴力を回復。演劇界に入り、演出家として身体と言葉の問題(スタニスラフスキー・システムの研究実践)に関する。演劇活動を通じて自らの失われていた言葉を新たに獲得する。その過程と、のちに日本語教育・表現教育・障がい者教育に大きな影響を与えることになる「からだとことばのレッスン(竹内レッスン)」の実践については、著書『ことばが劈かれるとき』(ちくま文庫)にまとめられている。野口三千三と共に日本のボディーワークの草分け的存在である。

過去の合宿参加者の感想

《参加者の感想》(神奈川三浦ふれあいの村での合宿より)◆身体の緊張がとれると、心も楽になるのですね。みんなで子供に帰って仲良しになったみたいな気がしました。◆普段の生活を離れて、海と山に囲まれた自然の中で、思い切り声を出したり、歌ったり、散歩をしたり、何もかもが新鮮で、家に帰るのが残念でなりません。ほんとうに楽しい三日間でした。また参加したいと思います。◆人と一緒に過ごすのがこんなに楽しいなんて、いつもは、人に気を使うばかりで我慢していたのですね。



【主催】 Art&Learning

【申込・問い合わせ】 人間と演劇研究所 瀬戸嶋宛 e-mail : karadazerohonpo@gmail.com tel : 090-9019-7547

Art&Learning 小石原宛 e-mail : t.koishihara@gmail.com